

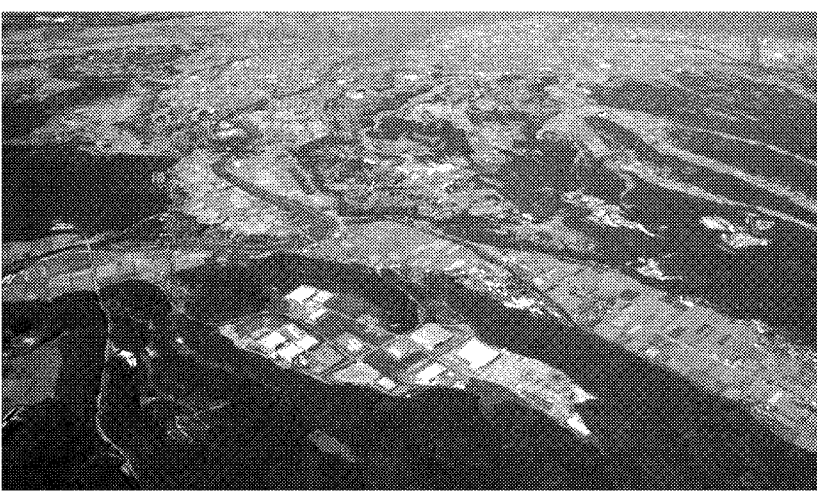
世界一の部品供給基地を目指す

大分北部中核工業団地

産業集積の厚みが武器

自動車や精密機器関連企業などが活発な生産活動を行う大分県。既存産業の集積が新たな産業を呼ぶ集積の厚さが同県の強みだ。その中でも中津・宇佐・国東市といった県北地域の産業集積地として中心的な役割を担うのが豊後高田市にある「大分北部中核工業団地」。モノづくりの実力派企業が立地した同団地が目指すのは「世界一の部品供給基地」だ。2004年にダイハツ九州(中津市)が進出して以来、自動車部品メーカーの進出が相次いだ。地場企業も新規参入、取引拡大が広がった。本特集では同社を中心とした北部九州の自動車産業の動向と同団地の魅力について紹介する。

ダイハツ九州や日産自動車九州工場(福岡県荏田町)など、北部九州地域に立地する自動車メーカー4社の10年の自動車生産台数は前年比33.2%増の114万台で、過去最高だった08年の111.3万台をわずかに上回った。世界同時不況で落ち込んだ輸出が回復し、政府のエコカー補助金も追い風となった。各社の最新鋭工場が稼働しており、今後は九州での自動車生産は増える状況だ。11年1月、地場企



豊かな緑に囲まれた大分北部中核工業団地



2010年6月21日ダイハツ九州が創立50周年を迎え、大分県へ車両を寄贈(左から2番目が東迫旦洋ダイハツ九州相談役、3番目が広瀬勝典大分県知事)

業と自動車メーカーなどで組織する大分県自動車関連企業会(大分市)が開いた「自動車関連産業新規参入・取引拡大促進セミナー」で、ダイハツ九州の東迫旦洋相談役は10年度の生産台数を「09年度実績約34万台を上回る約35万台を見込む」と語った。同社は11年

度に1.3倍、30%以上走る低燃費性能の新型軽自動車を生産を始め、またトヨタ(相模原市)の「プリウス」も秋から3車種始めの計画を持つ。大分県北地域を「カーアイランド九州」の一角を占めるまでに成長させたのは、まさにダイハツ九州の存在が大きい。

「世界ナンバーワン」の「スモールカーづくり」を目指し、07年には最新鋭の大分(中津)第2工場が稼働。年産能力は46万台体制を実現した。09年には操業開始から4年3カ月で累計生産台数100万台を達成するなど、ダイハツグループ全体で国内生産の約4割、軽自動車は約6割を生産する拠点として、そ

の存在感を増している。今後課題となるのが、自己調達への拡大だ。11年1月から経営管理部に部品調達室を新設した。生産する車両やエンジンに使う部品の地場調達率はすでに60%程度あるが、これまでは親会社のダイハツ工業に調達権があった。だがこれからはプレス部品やボディ部品、樹脂成形部品、計300点を対象に自己調達を開始する。その後順次対象となる部品を拡大し、最終的には全部品を自己調達する計画だ。

当初の3000点の部品は全体の1%程度で、調達費は年25億円。ダイハツ工業は11年度末までに部品調達費を3割削減する方針を打ち出しており、ダイハツ九

その間ダイハツ工業が九州で調達していた地場企業数は当初の49社から現在112社に、うち県内企業は14社から30社にそれぞれ拡大している。ダイハツ九州も大分県自動車関連企業会に技術アド

危機感！生き残りかけて九州進出

州は自己調達を始め、地場調達率を引き上げるなど、調達費を削減する。一方で自動車メーカーがより生産拠点を増やすことは、地場企業にとって新規参入、取引拡大の好機となる。同社は10年12月で操業7年が経過。自動車メーカーは、地場の範囲を韓国や中国といった成長著しいアジアに拡大、安くて良い物を調達し始めた。九州の企業にとっても技術力

大分県商工労働部

企業立地推進課は「九州の自動車メーカーは今後も増産傾向にある。進出先を探す企業からは初期投資を抑えるために空工場などの問い合わせも増えている」とい

大分県商工労働部

企業立地推進課は「九州の自動車メーカーは今後も増産傾向にある。進出先を探す企業からは初期投資を抑えるために空工場などの問い合わせも増えている」とい



北部九州の自動車メーカーと大分北部中核工業団地の位置

自動車、精密機器など多様な産業が集積

10年度の大分県の企業立地件数は2月現在14件。内訳は輸送用機械が8件、医療2件、食品1件、その他3件。特に輸送用機械における自動車関連は日産車体九州にかかわる立地が6件、ダイハツ九州同2件と、首都圏部品メーカーが相次いで進出している。

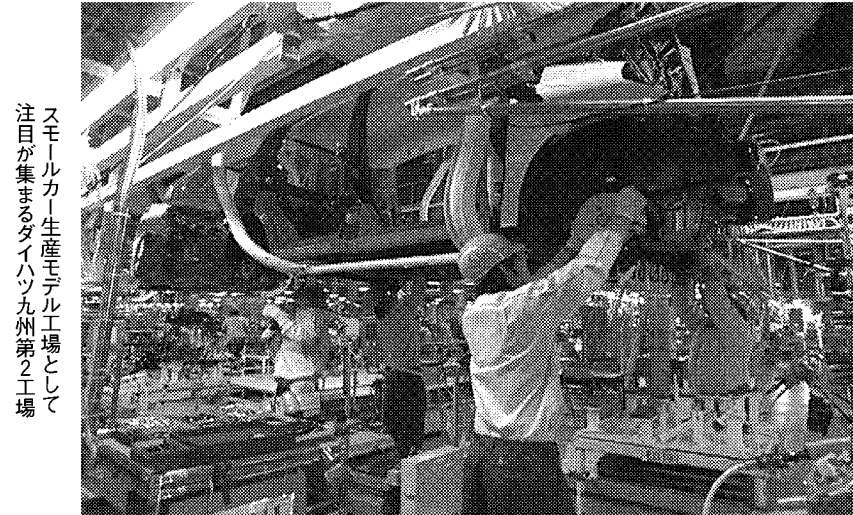
特に県北地域は大手メーカーの拠点が多数立地している。ダイハツ九州をはじめ、大分キャンノン(国東市)が82年に旧安岐町(現国東市)でコンパクトカメラ生産を始めた。05年には大分事業所(大分市)も操業開始

として存在感を示している。これら関連企業に加え、インクタンクやトナーを生産している。さらに12年には日田キャンノンマテリアル(日田市)の操業が予定された。大分県がキャン

ループ関連のTRI大分AEなど13社が進出している。全社が立地企業連絡協議会に加入し、情報交換活動も活発だ。好調な立地の背景には、ダイハツ九州がある。中津市で約30分、キャンノングループの各工場は約40分

の存在感を増している。今後課題となるのが、自己調達への拡大だ。11年1月から経営管理部に部品調達室を新設した。生産する車両やエンジンに使う部品の地場調達率はすでに60%程度あるが、これまでは親会社のダイハツ工業に調達権があった。だがこれからはプレス部品やボディ部品、樹脂成形部品、計300点を対象に自己調達を開始する。その後順次対象となる部品を拡大し、最終的には全部品を自己調達する計画だ。

当初の3000点の部品は全体の1%程度で、調達費は年25億円。ダイハツ工業は11年度末までに部品調達費を3割削減する方針を打ち出しており、ダイハツ九



スモールカー生産モデル工場として注目されるダイハツ九州第2工場

大分県 県北最大の製造拠点 大分北部中核工業団地

所在地／大分県豊後高田市かなえ台

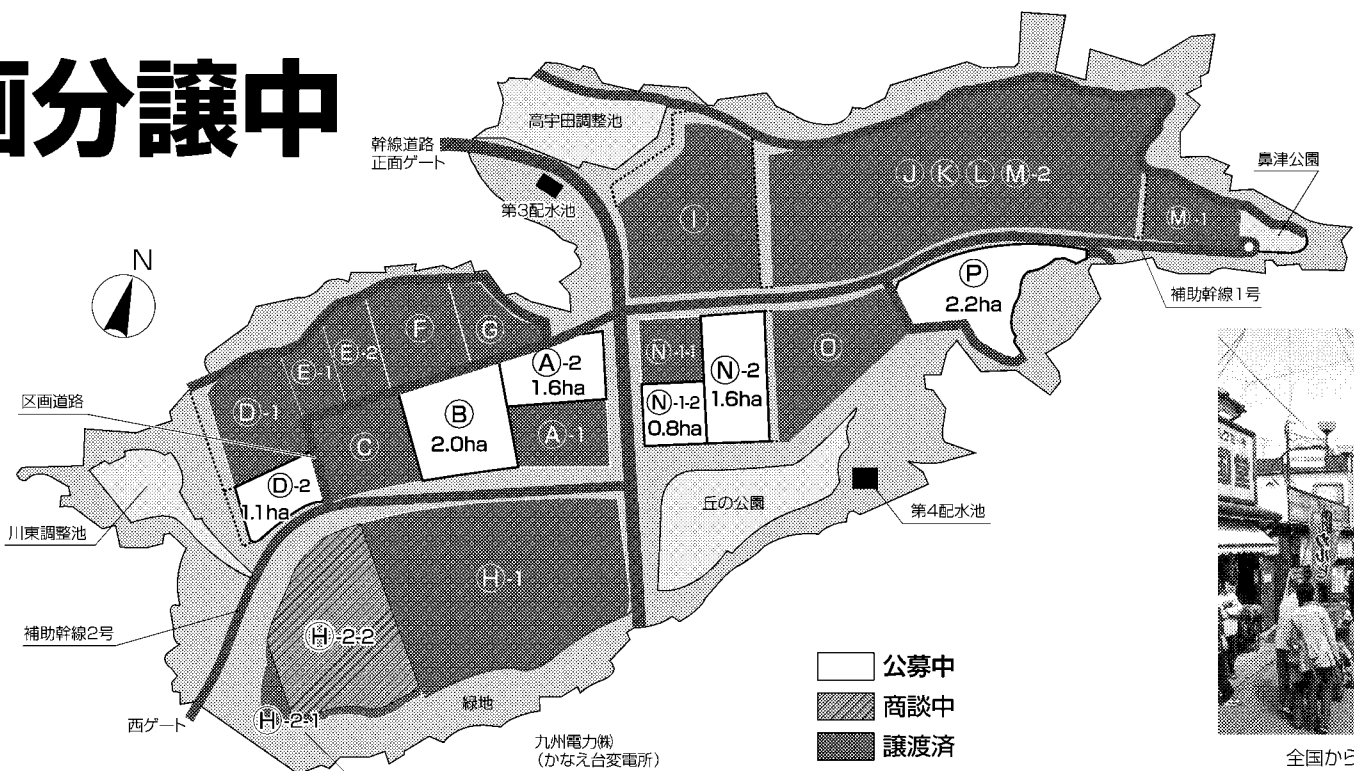
好評6区画分譲中

特長

- 最長15年まで長期割賦支払い可能
- 税制や補助金等の優遇制度が充実
- 緑化義務免除(工場立地法に基づく特例団地)

概要

- 用水:上水道 270m³/日
工業用水 3,000m³/日(予定)
- 排水:公共下水道完備
- 電力:特別高圧 66,000V



- 中小企業基盤整備機構九州支部 産業用地課 ☎(092) 263-0341
- 大分企業立地オフィス ☎(097) 533-8171
- 大分県 企業立地推進課 ☎(097) 506-3246
- 豊後高田市 商工観光課 ☎(0978) 22-3100

大分北部中核工業団地関連ウェブサイト

大分北部中核工業団地ホームページ

大分北部中核工業団地からのお知らせ。
<http://www.oitakita.jp>

大分県ホームページ

<http://www.pref.oita.jp/>

豊後高田市ホームページ

<http://www.city.bungotakada.oita.jp/>

中小機構のご案内サイト

各種支援施策・全国の支部の最新情報を掲載。
「中小機構ウェブサイト」<http://www.smrj.go.jp>